

# 次世代リーダー育成部会 実施報告

◇主催 一般財団法人日本私学教育研究所 ◇後援 日本私立中学高等学校連合会

研究のねらい

## 教育の未来を拓く羅針盤 ～変革の時代を乗り越えるために～

生成系 AI の進化等に見られる技術革新は、創造的活動に急速な影響をもたらしている。新しい価値観をもち、未来を生きる若者たちが集う各私立学校のリーダーには、予測不能な変化にも柔軟に対応し、進路を読み取っていく力が求められている。

今年度当部会は、永い歴史と文化遺産、豊かな風土に恵まれ、伝統と現代的なセンスの融合した古都・奈良県において、「教育の未来を拓く羅針盤～変革の時代を乗り越えるために～」を研究のねらいに開催する。私学が先導者となり、若者たちの未来を見据えて、どのような教育を展開していくのか、考察を深め、明日を拓くヒントを探る。

吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長／当研究所理事長からの講話、志村昌司・染織ブランド・アトリエシムラ代表を講師に迎えての講演、西大和学園中学校・高等学校の学校視察、特別プログラムとして橿原神宮参拝を行う。意見交換会・ネットワーキングパーティ等の交流プログラムでは、リーダーが本音で語り合うネットワーク構築の機会を提供する。

会 期 令和5年11月21日(火)～22日(水)

会 場 ホテル日航奈良 〒630-8122 奈良県奈良市三条本町8-1 (JR奈良駅西口直結)

参加人数 68名

- 参加対象
- A. 次世代リーダー（次世代の理事長・校長等）を志す者
  - B. ニューリーダー（新任の理事長・校長等）
  - C. 次世代リーダーを育成する現職リーダー（現職の理事長・校長等）
- ※ 参加対象校：都道府県私学協会加盟の私立中学校・高等学校・中等教育学校

講 話 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長  
日本私立中学高等学校連合会会長

講 演 「染織家・志村ふくみの芸術精神とその継承」  
志村 昌司 染織ブランド・アトリエシムラ代表

意見交換会 討議テーマ「教育の未来を拓く羅針盤～変革の時代を乗り越えるために～」  
～参加者主導によるグループ討議で、喫緊の課題を共有～

ネットワーキングパーティ  
～研修会を振り返りながら、参加者、関係者の絆を深めるための懇談夕食会(着席形式)～

特別プログラム 橿原神宮参拝 ～建国の聖地・橿原で日本の教育の原点を見つめて～

学校視察 西大和学園中学校・高等学校 (〒636-0082 奈良県北葛城郡河合町薬井 295)  
～アクションイノベーションプログラム(AIP)、SSH、国際教育など特色豊かな教育を展開～

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	20
	30	30	45		30	30 40	40 50		20 30		30 40	
初日						受付	開 会 式	講 話	講 演	意 見 交 換 会		ネ ッ ト ワ ー キ ン グ パ ー ティ
2日目	移 動	特 別 プ ロ グ ラ ム 橿 原 神 宮 参 拝	移 動	昼 食	移 動	学 校 視 察		移 動				

# ☆研修会日程☆

【1日目】 11月21日（火）

【会場 ホテル日航奈良】

12:30～ 13:00	<b>受付</b>	《全体会場》4階<飛天1/2>																		
13:00～ 13:30	<b>開会式</b> ☆開会 ☆主催者挨拶 ☆研修会運営方針説明 ☆来賓・役員・専門委員紹介／日程説明	司会 川本 芳久 一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長																		
13:40～ 14:40	<b>講話</b>	吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所理事長 日本私立中学高等学校連合会会長（中央教育審議会委員）																		
14:50～ 16:20	<b>講演</b> ☆演題 ☆講師	司会 森 涼 次世代リーダー育成専門委員 「染織家・志村ふくみの芸術精神とその継承」 志村 昌司 染織ブランド・アトリエシムラ代表																		
16:30～ 18:30	<b>意見交換会</b> 討議テーマ ※参加者が司会、次世代リーダー専門委員がファシリテーターとなり、小グループで喫緊の課題について意見を共有します。	4階<羽衣>/5階<芙蓉><桔梗><菖蒲> 「教育の未来を拓く羅針盤～変革の時代を乗り越えるために～」 <table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>ファシリテーター</th> <th>会場</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>I</td> <td>菅沼宏比古 専門委員長</td> <td>4階「羽衣 1/2」</td> </tr> <tr> <td>II</td> <td>森 涼 専門委員</td> <td>4階「羽衣 1/2」</td> </tr> <tr> <td>III</td> <td>梅村 光久 専門委員</td> <td>5階「芙蓉」</td> </tr> <tr> <td>IV</td> <td>平方 邦行 理事・所長</td> <td>5階「桔梗」</td> </tr> <tr> <td>V</td> <td>前田 均 専門委員</td> <td>5階「菖蒲」</td> </tr> </tbody> </table>	グループ	ファシリテーター	会場	I	菅沼宏比古 専門委員長	4階「羽衣 1/2」	II	森 涼 専門委員	4階「羽衣 1/2」	III	梅村 光久 専門委員	5階「芙蓉」	IV	平方 邦行 理事・所長	5階「桔梗」	V	前田 均 専門委員	5階「菖蒲」
グループ	ファシリテーター	会場																		
I	菅沼宏比古 専門委員長	4階「羽衣 1/2」																		
II	森 涼 専門委員	4階「羽衣 1/2」																		
III	梅村 光久 専門委員	5階「芙蓉」																		
IV	平方 邦行 理事・所長	5階「桔梗」																		
V	前田 均 専門委員	5階「菖蒲」																		
18:40～ 20:00	<b>ネットワーキングパーティ</b> （着席形式） ☆開会挨拶 ☆乾杯／懇談 ☆閉会挨拶	4階<飛天1/2> 司会 前田 均 次世代リーダー育成専門委員 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長 梅村 光久 次世代リーダー育成専門委員																		

【2日目】 11月22日（水）

8:30～ 9:20	移動 ※8時20分までにホテル日航奈良1階西口玄関にご集合下さい (※ホテル日航奈良から貸切バス)
9:30～ 10:45	<b>特別プログラム【橿原神宮参拝】</b> （奈良県橿原市久米町 934） 移動（※貸切バス）
11:00～ 12:00	<b>昼食</b> 移動（※貸切バス）
13:00～ 15:00	<b>学校視察 西大和学園中学校・高等学校</b> （男女共学校） 【視察プログラム】
13:10～ 13:40	<b>視察校代表挨拶</b> 田野瀬 太樹 学校法人西大和学園理事長 <b>学校紹介</b> 岡田 清弘 西大和学園中学校・高等学校学園長
13:40～ 14:30	<b>施設・授業見学</b>
14:30～ 15:00	<b>全体会</b> （質疑応答等） 飯田 光政 西大和学園中学校・高等学校校長 <b>お礼のこたば・総括</b> 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長
15:00～ 16:00	移動（※視察校から貸切バスでホテル日航奈良へ）～ 解散

## 講師紹介 志村 昌司 (しむら しょうじ) 染織ブランド・アトリエシムラ代表

1972年京都市生まれ。絨織の人間国宝・志村ふくみの芸術精神を継承する染織ブランド・アトリエシムラ代表。芸術学校アルスシムラ特別講師。京都大学法学研究科博士課程修了。2018年、2021年と二度にわたって新作能「沖宮」(石牟礼道子原作)プロデュース。2022年、オリジナル手織機 hatari でグッドデザイン賞受賞。著書に『草本の聲(こえ)』(京都新聞出版センター)、『夢もまた青し』(河出書房新社)など。



## 視察校紹介 西大和学園中学校・高等学校

理事長 田野瀬 太樹 学園長 岡田 清弘 校長 飯田 光政

緑と史跡に恵まれた素晴らしい環境のもと、次代を担う高い理想と豊かな人間性をもった生徒の育成を目標に、真に充実した高校教育を創造しようとして、昭和61年4月、西大和学園高等学校(男女共学)を開校いたしました。

開校以来、本校独自の教育を実践し、科学的洞察力、国際性、利他の精神といった、リーダーとして不可欠な資質を育む教育をめざしています。

建学の精神に基づき、本校教育の方針となる、進取の気性に富む校訓を定めています。

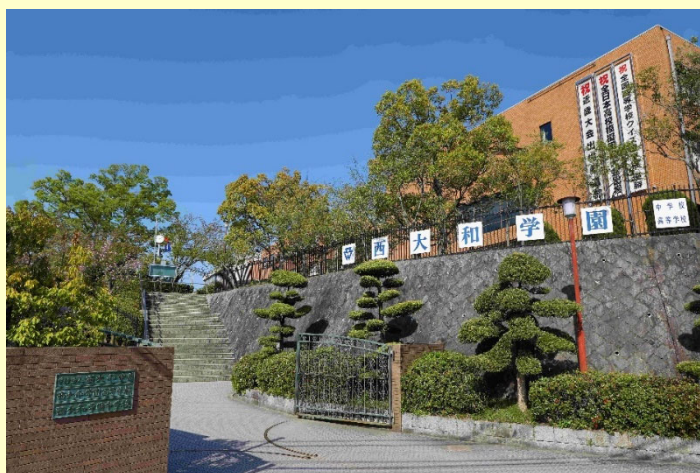
探究(Study) 探究心に満ち知識や情操を養う

誠実(Sincerity) 誠実に徹し、高邁な品性を培う

気迫(Spirit) 気迫にみなぎる強い意志を育む

学校教育の場に家庭的な温かさと家族的な厳しさを併存させ、師弟が互いに敬愛し合う人間的なふれあいの中から人間形成を達成し、さらには一人ひとりに焦点を合わせる教育で、大学で学ぼうとする者のため、基礎能力を養成し、個々の練磨によって自主的に事を成し遂げる気力を養います。

また、高等学校開校2年後の昭和63年4月、6カ年一貫教育による教育効果の向上をめざし、西大和学園中学校(男子校)を開校し、平成26年4月、女子中等部を設置し中学校も共学となりました。



### ◆ 講師・指導員 (順不同) ◆

志村 昌司	染織ブランド・アトリエシムラ代表
田野瀬 太樹	学校法人西大和学園理事長
岡田 清弘	西大和学園中学校・高等学校学園長
飯田 光政	西大和学園中学校・高等学校校長
吉田 晋	富士見丘中学高等学校理事長・校長
平方 邦行	一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

### ◆ 専門委員・指導員 (順不同) ◆

菅沼 宏比古	学校法人西海学園理事長
森 涼	学校法人石川高等学校・石川義塾中学校理事長・校長
梅村 光久	学校法人三重高等学校理事長
前田 均	鹿屋中央高等学校理事長・校長
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所理事・事務局長



## ●実施概要●

11月21日(火)～22日(水)、奈良県奈良市・ホテル日航奈良において「教育の未来を拓く羅針盤～変革の時代を乗り越えるために～」を研究のねらいに開催、26都府県から募集人数を超える68名が参加した。

初日の開会式では、平方邦行・当研究所理事・所長の主催者挨拶に続いて、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長の運営方針説明を述べた。吉田晋・日本私立中学高等学校連合会会長／当研究所理事長からの講話、志村昌司・染織ブランド・アトリエシムラ代表を講師に迎えての講演「染織家・志村ふくみの芸術精神とその継承」を行った。その後、参加者が司会を務める参加者主体の形での意見交換会、ネットワーキングパーティを行い、参加者は喫緊の課題について意見を共有するとともに、交流を深めた。

2日目はまず、特別プログラムとして橿原神宮を参拝した。西大和学園中学校・高等学校の学校視察では、田野瀬太樹・学校法人西大和学園理事長からの視察校代表挨拶、岡田清弘・視察校学園長の学校紹介の後、施設・授業見学を行った。つづく、全体会では飯田光政・視察校校長が事前に参加者から寄せられた質問に対して質疑応答を行い、最後に、菅沼宏比古・次世代リーダー育成専門委員長がお礼のこぼ・総括を述べ、研修会は成功裡に終了した。

2日間の研修会は非常に充実した内容で、全てのプログラムに対して参加者から高い評価を受けた。

### ○開会式○

#### 主催者挨拶 平方 邦行 一般財団法人日本私学教育研究所理事・所長

世界が変容していく中で、私たちが目指すのは21世紀型教育である。なぜ21世紀型教育が必要なのか。予測不可能な未来は過去の経験や知識の習得だけでは、社会課題は解決できない。そこには創造性豊かな若者の育成が重要になる。学校教育の中で創造性を育むためには、自由な発想や寛容性が不可欠になる。20世紀末の世界の先進国は、そこに着目して教育を改革に踏み切ってきた。日本の学校教育を未来を見据えた教育にしていくには、次世代を担うリーダーたちや、現役のリーダーの先生方が現状を切り開いていかなければいけない。私立学校の先進性・先見性そして独自性を発揮するためにこれからの私立経営をデザインしてほしい。



#### 研修会運営方針説明 菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長

私たちリーダーが変わっていかないと学校が変わっていかないと。社会の変化、子供たちの変化に対して、学校も変化していかないと、これからの子供たちを教育する現場になりえない。さらに、先生方には自分の学校だけでは解決方法が見つからないこともあっても相談ができるネットワークをつくってほしい。この研修会で得たものを学校にもってかえて活用し、学校をよりよい環境にしてもらいたいと考えている。



### ○講話○

#### 吉田 晋 一般財団法人日本私学教育研究所 理事長 日本私立中学高等学校連合会 会長（中央教育審議会委員）

一つ一つの学校がよくなると、これからは厳しい時代である。その上で、お互いが困った時に助けあえるネットワークが必要であるし、自分の学校だけではなく、日本全国がよくなるといけない。戦後の日本の復興の原点は教育であり、その教育をリードしてきたのは私学である。私学は先駆者であるし、生徒一人ひとりが持つ個性をより伸ばして一歩上を目指して成長させてきた。しかし現在の人口減少は止めようがない状況である。今後、海外から日本に来た留学生や技能実習生のうち、優秀で日本国籍を取りたい人には、日本国籍を取得できるようなことも考えられる。



留学生等を受け入れていくことにおいて大切なことは教育であり、特に、中等教育が大事であろう。中等教育を担う学校が日本人としての教育をしっかりと行うことで、ルールがあるから自由があること、善悪の分別、しっかりとした判断力、表現力、思考力を身につけて自らやったことに責任がともなうことを生徒が学ぶ。また、将来留学生を受け入れ、教育をすることを私学がやっていかないといけない。リーダーが変わり、各校の建学の精神を現代に読み替えていかないといけない。次世代のリーダーは新しいことを考え実践してほしいが、私立学校のプライドを捨てないでほしい。私立学校の先達が行ってきたことを引き継いで、新しいものやっつけてほしい。

## ○講演○

### 「染織家・志村ふくみの芸術精神とその継承」

志村 昌司 染織ブランド・アトリエシムラ代表

志村ふくみの芸術精神、創造性と継承にしばってお話したい。志村ふくみの芸術精神は民芸を根本としている。民芸運動の主唱者であった柳宗悦の思想を簡潔なことばでまとめた心偈（こころうた）に「指すや都、見しやここを」がある。私たちは理想を目指して歩いていくが、実は理想は自分の内面、足元にあったということに気づくという意味である。私たちは外に目が向きがちで、自分の考えを外に広げていくかという活動になりがちである。これを逆に自分の内に深めていく。拡張していくベクトルだけでなく、内に行くことを大切にしている。



柳宗悦との出会いが、志村ふくみが染織の道へ進むきっかけとなった。織物をしていたが続けられなかった母の小野豊、絵画の道に入ったが夭逝した兄の小野元衛の思い、更に小野豊が師事した夭折の染織家青田五良たちの、果たされなかった思いの継承とともに、その思いを次の世代に引き継がないといけないという思いが志村ふくみにあった。

民芸の理念の1つ目は選ばれた天才ではなく、民衆こそが美をうみだせるということである。これは大正デモクラシーの主張と無関係ではない。政治の民主化、思想の民主化に対応して、美の民主化、すべての人間が美にかかわることができることを理念化した。2つ目は、美は自然への帰依、自然に対する畏敬の念から生まれるというものである。工芸の美は自然の良い素材から生まれるものであり、その素材から必然的に要求される色や形に従えば、おのずから美は生まれる。また、自然相手の仕事は働く喜びを感じ、楽しくストレスがなく、働くとは何かを考えさせられる。3つ目は、工芸は用の美である。工業製品は作ったときが一番良く、次第に劣化するが、工芸品は作られたときは生まれたてで未熟であるが、使えば使うほど味が出て良くなっていく。生活するパートナーとなり、一緒に年を重ねて親しみがわいてくる。親しいものに囲まれた生活は人間の幸せにつながる。手仕事が生み出す一つの良さである。この3つが民芸の本質である。だれもが美を生み出し、自然への帰依、用の美、これが志村ふくみの出発点にある。

染めの歴史は深く、古代の草木染めは祈りの染め（神事）である。美のためではなく、自然への祈りであり、草木に宿る木霊は、もっとも身近にある和魂（にぎみたま）と考えられていた。染めは薬草で染めた衣服をまとい、人を悪霊から守るという考え方があった。また五行思想が染織の根源にある。五行思想は木火土金水の五元素が万物を生じ、万象を変化させるという古代中国の考え方である。染織で考えると、木は植物、火は炊き出し、土は植物を生み出すもと、金は媒染で、染色で鉄媒染や銅媒染など鉱物を使うことで、発色させる。水の違いでも発色が異なってくる。さらに、植物染料の大半は薬草である。今は30種類ほどを染めているが、平安時代の植物の染めは200種類くらいあり、今よりもずっと多かった。染めは草木の生命の色をいただくことである。それぞれの植物がそれぞれの色をもっていて、染める時期や染めた人によってかわってくる。十人十色というが、本当に無限に色があるし、それは人間の個性に通じるものがある。

次に創造性と教育について話したい。まず、志村ふくみの実家である小野家が設立に協力した昭和学園は、谷騰（たに・のぼる）を招聘し1926年に近江八幡に開校した私立小学校で、小野家が子どもたちを通わせていた。

昭和学園の教育は注入型・画一的教育への批判的な立場をとる近代教育運動へのアンチテーゼとして成立した大正新教育運動を受け継いでいる。次に、志村ふくみが学んだ文化学院は西村伊作が設立した自由な学校で、個性の尊重、男女の平等を目指す自由主義的教育を実践した。それまでの家長制の中での良妻賢母教育ではなく、男性と同等の自主独立をめざした女子教育をおこなっていた。志村ふくみは、文化学院で、自由な魂、芸術的な感性、教育という仕事を学び、文化学院の芸術を核にした自由な教育は都機工房、アルスシムラに継承されている。

志村ふくみが京都・嵯峨野に移って都機工房を構えてからは弟子をとるようになった。職人の教育の仕方は徒弟制だが、都機工房での工房教育は共通の目標をもってみんなで制作をする仲間である。上から教えるというよりも、志や理念が共有され、もっと大きな目標に向かって先生も生徒も向かって制作していく。お弟子さんはすぐに、染めや織りの仕事を始め、一カ月ほどもするとだんだん織れるようになる。そして、原則3年をめどに卒業することになっている。

私たちは、2011年の東日本大震災と福島原発事故によって、「近代文明の危機」を感じた。草木染めという行為も、自然そのものがなくなっては存続できない。大いなる自然とともにあるこの営みを次世代に残すため、社会に開かれた芸術教育の場を作りたいという考えが私たちの中に生まれ、今から10年前の2013年にアルスシムラが設立された。アルスシムラでの学びの大きな特徴の一つは、自分の内面世界を織ることである。テーマは外のものをみて決めるのではなく、自分自身の中からでてくるものを表現してもらう。インプットして、時代を追いかけていくのではなく、自分自身と向き合い、自分の内面をひたすらみていくということである。2つ目は、手仕事を中心とした学びである。手仕事は非常に五感をつかう。触覚、におい、嗅覚、味や五感をつかって染める。パソコンをつかって作業をしていると五感を使わず概念的になりがちであり、身体を使って学ぶことが重要である。3つ目は、失敗が失敗にならない仕事である。失敗したら、どうすればよくなるのかを考え、全体の設計を修正・変化させ、失敗を失敗でなくする。4つ目は、自然に対する畏敬の念で、自分自身が大いなる自然の一部であることを自覚することである。5つ目は、経糸（たていと）は運命、緯糸（よこいと）は現在ということである。経糸は一度、機（はた）にかけると動かすことができない運命のようなもの、緯糸は時々気持ちで織り入れることができる。運命と現在の積み重なりで人生という織物を織る。6つ目は、私たち一人ひとりが美を生み出しうるという信念である。この信念が皆を元気づけ、制作に向かわせる。美は、ある特定の人だけではなく、全ての人にひらかれていることが、学校の理念の中で一番大事である。

魂の継承というテーマは、非常に難しい問題である。継承には血統と霊統がある。血統は血筋の継承だが、霊統は思想の継承だ。親子が代々継承する血統による継承は伝統工芸や伝統芸能の世界で非常に多いが、思想・精神の継承は必ずしも親子に限らないであろう。精神の継承は肉親ではなく、ある日、突然、血のつながりのない人に継承されることがある。そういう意味では必ずしも血、親子に拘らず、魂や思想の継承者がでてきてほしいと思っている。

理念を共有し、深めることは組織、共同体に一番必要なものである。志村ふくみも危機の時に、工芸の理念に立ち返ったことで、仕事を続けてこられたという。つまり、何のためにこの仕事をしているのかという問いである。その意味を組織の中で常に深め、共有していくことが大事である。そのことは、お金の問題や待遇の問題を超えた、本質的な問題ではないかと思う。組織のもつ理念を生きた理念にすることが大事で、それぞれの心の中で理念が活動していないといけない。まさにそれが「指すや都、見しやここを」の理念なのである。



### ○意見交換会○

5つのグループに分かれて、参加者同士の意見交換会を行った。今年度も参加者主体の意見交換会とするため司会は指名された参加者が務めた。また、意見交換会の充実のため、プログラムの時間を昨年度より延長した。参加者は有意義な情報を交換するとともに日頃の悩みや課題を共有した。



### ○ネットワーキングパーティ○

平方邦行・当研究所理事・所長の開会挨拶に続き、参加者より指名された徳野慎一郎・学校法人東福岡学園副理事長が乾杯の挨拶を行った。参加者は意見交換会につづき、幅広く情報を交換し、ネットワークを構築した。参加者の各テーブルからの代表者による挨拶の後、吉田晋・当研究所理事長が参加者へメッセージを送った。最後に、梅村光久・次世代リーダー育成専門委員より閉会の挨拶があり、初日を締めくくった。



平方邦行・理事・所長



次世代リーダーによる乾杯



吉田晋・理事長



梅村光久・専門委員

### ○特別プログラム【榎原神宮参拝】○

特別プログラムとして、榎原神宮で正式参拝を行った。神職から榎原神宮の由緒の説明、参加者へのメッセージがあり、参観者からは身が引き締まる思いであったといった感想が寄せられた。



### ○学校視察○

西大和学園中学校・高等学校の学校視察では、田野瀬太樹・学校法人西大和学園理事長からの視察校代表挨拶、岡田清弘・視察校学園長による学校紹介の後、グループに分かれて施設・授業見学を行った。つづく、全体会の質疑応答では飯田光政・視察校校長が事前に参加者から寄せられた全ての質問に対して回答した。全ての視察プログラムが参加者にとって参考となる、非常に充実した学校視察となった。



○総括○

菅沼 宏比古 次世代リーダー育成専門委員長

リーダーは自分自身の中に目的・目標を自分で作り上げていけないと思っている。更に横のネットワークがあれば校内で何かあった時に色々な相談ができ、最終的な決断を下すときのヒントになる。さらに学校の中にいるだけでは、自分の世界がなかなか広がっていかない。しかし、こうした場にてでてくることで自分の世界はひろがっていくので、非常に勉強になる。来年以降も参加していただきたい。



●都道府県別参加者数●

No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数	No.	都道府県名	人数
1	北海道	0	17	石川	1	33	岡山	1
2	青森	0	18	福井	2	34	広島	0
3	岩手	0	19	山梨	0	35	山口	0
4	宮城	1	20	長野	0	36	徳島	0
5	秋田	0	21	岐阜	2	37	香川	0
6	山形	1	22	静岡	4	38	愛媛	2
7	福島	1	23	愛知	1	39	高知	0
8	新潟	0	24	三重	3	40	福岡	4
9	茨城	1	25	滋賀	0	41	佐賀	1
10	栃木	2	26	京都	2	42	長崎	2
11	群馬	0	27	大阪	8	43	熊本	1
12	埼玉	1	28	兵庫	0	44	大分	0
13	千葉	1	29	奈良	0	45	宮崎	1
14	神奈川	6	30	和歌山	0	46	鹿児島	1
15	東京	15	31	鳥取	0	47	沖縄	0
16	富山	3	32	島根	0			
					26 都府県	計		68

●参加者アンケート●

回答者：21名／参加者：68名〈回答率30%〉

○講話について

- ・日本の教育界が抱える課題を再認識し、私学の果たすべき役割について理解を深めることができた。
- ・私学がどうあるべきなのかという根本の部分を変えて共感した。
- ・私学をとりまく現在の状況がよくわかった。様々な状況をふまえても、やはり学校が力をつけていかなくてはいけないとあらためて感じた。
- ・私学教育に対する「熱量」を感じました。初めて教壇に立った時のことを思い出した。

○講演について

- ・外を見るのも大事だが、内をより深めていくことが大切という言葉が心に響いた。
- ・教育に通じる部分が多いと感じ大変勉強になった。また、組織の精神の継承、理念の共有という観点で学校も制作工房も、またいかなる組織においても共通する、組織の背骨（経糸）の重要性を強く感じた。
- ・人とのつながりの大切さ、仲間との関わり方を学んだ。
- ・創立者の理念の継承、組織の持続的経営という点で、参考となった。



## ○意見交換会について

- ・学校は違えど、似たような悩みを抱いておりその共有ができたことは有意義であった。
- ・ほぼ同じ立ち位置の方々の情報交換は共通する課題も多く、その解決法に様々な手法があることがわかり勉強になった。
- ・働き方の観点で、やはりどの学校法人も同じ課題感を持っておられることが分かった。研修の体制、内容なども非常に参考になった。
- ・各学校での悩みは様々でも、それを共有させていただける場があることが大変有難く、特に教職員の学内研修や懇親の場、教職員の教育についての取り組みなどがとても参考になった。

## ○ネットワーキングパーティについて

- ・同テーブルに次世代を担う経営者の方が多く、そのエネルギーや考え方に大いに刺激を受け今後の励みとなった。
- ・どの先生も生徒のことを第一に考え熱意をもって指導されており、自分も頑張らねばという気持ちになった。
- ・胸襟を開いて語り合える楽しくも有意義な会だった。
- ・意見交換会の延長でさらに色々なことを話すことができ、困ったときには相談ができるネットワークが大切であるとおっしゃっていた菅沼先生のお話がよく理解できた。

## ○学校視察について

- ・とにかく先生方のパワーが桁違いであること。先生方の仕事量が、生徒さんたちの授業への集中度に現れているように思った。
- ・奈良まで来てよかった、この場を作っていただき感謝しかない。進学校を目指す本校の参考となる話が伺え、授業も見られて言うことなし。
- ・先生方がやりたいことにチャレンジする姿勢を見せることで、生徒が自発的に行動するようになる。進学指導だけでなく人間力を育成する先生方の気迫を感じた。
- ・何より明るく、悲壮感がなく、勉強をやらされているものではないというのが、雰囲気や校長先生はじめ関係者の方々の話から伝わった。
- ・とにかく西大和学園中学校・高等学校の経営ビジョンにはたいへん驚いた。

## ○その他

- ・橿原神宮の方のお話から、建国の原点を大切にするように建学の理念を日々意識することの重要性を考えさせられた。
- ・継続して参加されている先生方が多いこの研修会で、親睦を深めることができることが大変ありがたい。
- ・バスの中や昼食でも様々な意見交換ができ、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・今回初めての参加であったが、次世代を担う経営者、管理職、教員など地域や年齢など異なる人が一堂に会して研修を受け、情報交換をしたことは貴重な経験になった。
- ・大変充実の二日間を過ごすことができた。また、今後とも様々な研修の機会等ご案内いただければ、大変ありがたい。